



ひびき



CONTENTS

- 1 ドラム缶工業会ホームページリニューアルの紹介
- 2 新社長登場 (株)ジャパンペール 橋本克典
新邦工業(株) 垣内成世
- 3 ドラム缶工業会の安全活動
- 4 企画・統計委員会 東日本大震災復興関連施設訪問
／独占禁止法遵守研修会
- 5 AOSD役員会報告・AOSD国際会議2027広島
開催決定
- 6 ペール委員会 異業種工場見学会レポート
- 7 ドラム缶の鐘(西法寺)／リサイクルフロッピーチャート
- 8 2024年度出荷実績

91

ホームページを 大幅リニューアル ～ より親しみやすく、情報発信力を強化～



ドラム缶工業会では2015年以来となる大規模なホームページのリニューアルを実施し、2024年6月末に新サイトを公開いたしました。

これまで当ホームページでは、工業会の概要やイベント情報、ドラム缶・ペール缶に関する統計、製品の特長や取扱いに関する情報などを中心に発信してまいりました。

今回のリニューアルでは、そうした従来の情報を整理・再構成するとともに、閲覧性の向上と親しみやすいデザインを重視し、ユーザーが求める情報にスムーズにアクセスできるよう、サイト全体の構成を見直しました。また、新たに以下のような情報を追加し、情報発信力を強化しています。

- ・会員各社におけるSDGsへの取り組み紹介
- ・女性活躍推進に関する情報(社員インタビューを含む)
- ・採用情報(各社採用ページとの連携)

本ホームページは、業界の認知度向上、用途拡大、社会貢献のPR、人材確保などを目的としており、今後も情報発信の中核として積極的に活用してまいります。今後も引き続き、コンテンツの充実と改善を図り、より多くの方々にとって魅力あるホームページになることを目指してまいります。

新しいホームページはこちらから
<https://www.jsda.gr.jp/>



スマートフォンでも見やすくなりました。



2025年度 役員・委員長の紹介

2025年6月1日現在

■ 理事長		近 松 幸士郎	日鉄ドラム (株)	代表取締役社長
■ 副理事長	● 200L缶関係 ● 中小型缶関係 ● ペール缶関係	関 谷 慶 宣 吉 岡 正 俊 長 尾 浩 志	JFEコンテナ (株) ダイカン (株) (株) 長尾製缶所	代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長
■ 常任理事	■ 兼監事 ■ 兼監事	橋 本 克 典 今 井 久 代 内 藤 誠 垣 内 成 世 鈴 木 康 友 前 田 洋 子 山 本 和 男	(株) ジャパンペール (株) 東京ドラム罐製作所 斎藤ドラム罐工業 (株) 新邦工業 (株) 東邦シートフレーム (株) (株) 前田製作所 (株) 山本工作所	代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長
■ 委員長	● 企画・統計委員会 ● 技術委員会 ● ペール委員会 ● 安全委員会	松 田 浩 江 原 真 藤 田 智 志 寶 槌 光 春	日鉄ドラム (株) JFEコンテナ (株) (株) 長尾製缶所 斎藤ドラム罐工業 (株)	取締役常務執行役員 管理本部長 取締役 千葉工場長 品質保証室 課長室長
■ 事務局長		廣 川 二 郎	ドラム缶工業会	専務理事

新 社 長 登 場

株式会社ジャパンペール
橋本 克典



本年4月に大淵前社長の後を受けジャパンペール社長に就任いたしました橋本克典です。私は1993年商社に入社以来、一貫して薄板・厚板・建材などの鉄鋼製品営業と関連する事業投資に携わってまいりました。特に印象深いのは、尖閣列島国有化による日中関係悪化時に中国・蘇州に赴任したことです。200名以上の現地社員との濃密なコミュニケーションを通じて相互理解に努めた経験は、多様性を尊重し、包摂的な社会を目指す現代のDE&Iにも通じる貴重な財産となっております。足下の世界情勢は関税問題、国際紛争・緊張等さまざまな要因で不透明感が高まり、国内に目を向けると令和の米騒動が象徴的な諸物価の高騰、人材不足等が大きな課題となっています。こうした難局を乗り越えるべく、当社ではDX推進による生産効率の向上や、若手人材の育成に注力しております。また、環境負荷低減への貢献も喫緊の課題と捉え、迅速かつ柔軟に対応してまいります。ドラム缶業界を取り巻く環境は常に変化していますが、本会を通じて「最新技術の情報共有」「共通課題への協調的な取り組み」等で業界の健全な発展に貢献できるよう尽力してまいります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

新邦工業株式会社
垣内 成世



このたび、ドラム缶工業会の常任理事を拝命いたしました、新邦工業株式会社の垣内でございます。業界各位におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

私は2004年に石油元売り会社から本業界に転じ、以来20年にわたり、ペール缶に関わる事業に携わってまいりました。そして2024年8月より、代表取締役社長として新たな責任を担わせていただいております。

当社は「誠意と熱意」を社是に掲げ、全社員が一丸となってお客様第一の姿勢を貫く経営を志しております。この理念を胸に、自社の持続的な成長を図るとともに、業界全体の発展にも微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

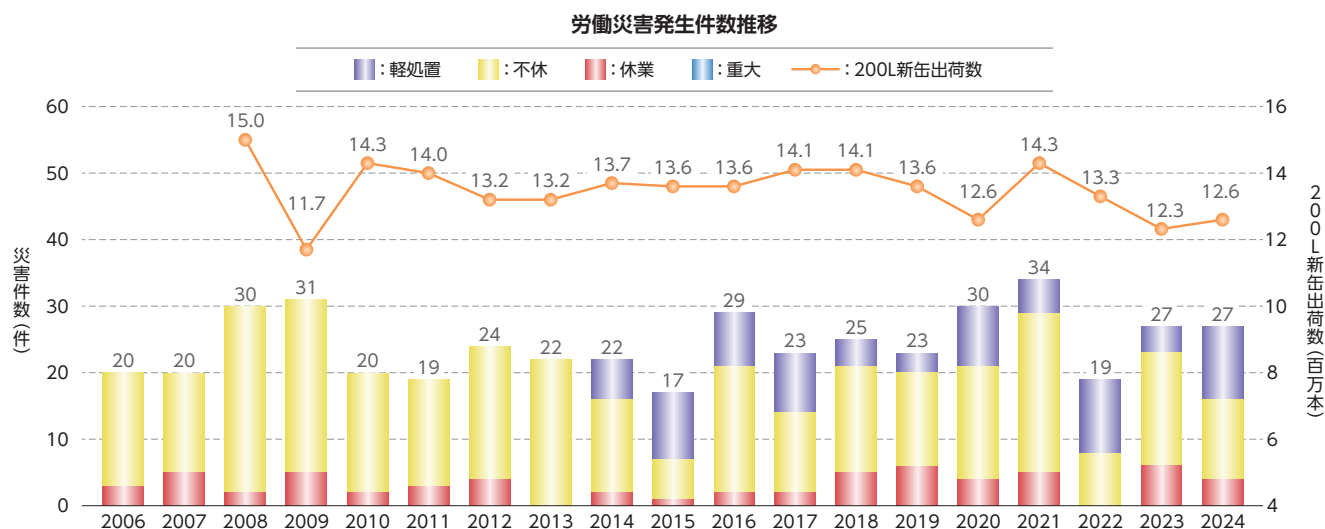
ドラム缶・ペール缶業界は、時代の変化とともに多様な課題と機会に直面しております。安全・品質・環境への配慮はもとより、次世代を見据えた技術革新や人材育成など、共に力を合わせるべきテーマは数多くございます。

今後は、お客様や社会の声に耳を傾けながら、会員各社の皆様と共に、業界のさらなる発展に尽力してまいり所存です。変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。常任理事就任のごあいさつとさせていただきます。

ドラム缶工業会の安全活動

ドラム缶工業会では、2006年より会員各社の労働災害事例を共有し、類似災害の撲滅活動を推進しています。

2024年の安全成績および安全委員会の相互事例発表活動



グラフは、会員各社における労働災害の発生状況を示しています。2024年（暦年）の労働災害件数は前年と同じ27件でしたが、このうち休業を伴う災害は4件で、前年から2件減少しました。内訳を見ると、熱中症による災害が10件と特に多く、課題が浮き彫りとなった一年でした。

ドラム缶工業会では、毎年7月に各社の安全衛生活動に関する相互事例発表会を開催しています。本年は7月11日、鉄鋼会館での対面とリモートを併用する形で実施しました。

以下は、本年の相互事例発表会での各社の発表テーマです。

- 1) 塗装工程の熱中症対策、リスクマネジメント活動 斎藤ドラム罐工業
- 2) 暑熱対策 エリア空調設置 JFEコンテナナー
- 3) 全社安全衛生活動の概要、全社活動のトピックスより ジャパンペール
- 4) 熱中症対策 新邦工業
- 5) 2025年度安全衛生の取り組み、安全対策、ほか ダイカン
- 6) 労働災害報告・熱中症対策 東京ドラム罐製作所
- 7) 安全行動調査について 東邦シートフレーム
- 8) 新人教育・熱中症対策、ほか 長尾製缶所
- 9) リスクアセスメント「刻印プレス金型交換作業」 日鉄ドラム
- 10) 熱中症対策 前田製作所
- 11) 新人社員教育の見直し 山本工作所



相互事例発表会の光景

今年の発表では、熱中症対策に関する事例が多数あり、エリア空調設備の導入効果や各種対策アイテムの活用事例など、会員各社にとって有益な情報が多く共有されました。昨年の熱中症災害の多発を踏まえ、6月6日に開催した熱中症対策特化の安全委員会における情報交換が、各社の取り組み強化につながったこともうかがえます。また、新人教育に関する発表もあり、安全意識の定着という観点からも有意義な内容となりました。

なお、2025年の労働災害発生件数は、7月の発表会時点で11件となっています。今後も、特に「はさまれ」「巻き込まれ」「切創」「熱中症」といった重点災害の防止を中心に、会員各社が防災意識を一層高め、労働災害の撲滅に向けた取り組みを推進してまいります。

福島水素エネルギー研究フィールド（福島県浪江町）

ドラム缶工業会の企画・統計委員会で、福島県浪江町の震災復興関連施設であるNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）、福島水素充填技術研究センターを訪問しました。

日 時：2025年6月12日（木）

午後1時30分～午後3時

見 学 場 所：福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）、
福島水素充填技術研究センター

見学参加者：ドラム缶7社 12名

福島県浪江町は、ゼロカーボンシティを宣言し、「なみえ水素タウン構想」を掲げ、さまざまな取り組みを行っています。訪問当

日は、浪江町産業振興課新エネルギー推進係の渡邊副主査に福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）をご案内いただきました。FH2Rは、再生可能エネルギーなどから毎時1,200Nm³（定格運転時）^{*}の水素を製造する能力を持ち、電力系統に対する需給調整を行うことで、出力変動の大きい再生可能エネルギーの電力を最大限利用するとともに、クリーンで低コストの水素製造技術の確立を目指しているとのことをお話を伺いました。また、近接している福島水素充填技術研究センターでは、NEDOの山上プロジェクトマネージャーより、同センターは主にFH2Rで製造した水素を利用し、燃料電池を搭載した大型・商用モビリティ（HDV）への大流量水素の充填や計量の技術に関する開発・検証が実施可能な研究施設で、今後これらの技術開発を着実に進め、燃料HDVの早期の実用化、普及を目指している、との説明がありました。この浪江町の水素社会実現に向けたさまざまな取り組みを通して、来るべき水素社会がイメージできた有意義な一日となりました。

^{*}Nm³（ノルマル立方メートル）：0℃、1気圧における乾燥状態の気体の体積を表す単位。



FH2Rの施設全景



FH2Rの施設を背景に集合写真

独占禁止法遵守研修会



● 開催日：2025年7月24日（木） ● 会場：鉄鋼会館（リモート中継併用） ● 講師：多田 敏明 弁護士

ドラム缶工業会が毎年行っている独占禁止法遵守研修会は、今年度は7月24日（木）、日比谷総合法律事務所の多田敏明弁護士を講師に迎え、例年同様にリモート中継を併用したハイブリッド方式で開催し、約170名が出席しました。

今回の研修では、まず労務費転嫁指針についての公正取引委員会の取り組みと留意点が述べられ、特に価格転嫁交渉で求められる「定期的な協議」や「根拠資料」等の要点が解説されました。続いて、2026年1月施行予定の下請法改正のポイントとして、従業員数300人基準の導入や運送委託取引の適用拡大、手形払いの禁止等、実務への影響が大きい変更が示されました。講義では、施行までに準備すべき事項が明確に整理され、会員にとって分かりやすい内容でした。また、この下請法改正に関連し、金型の無償保管の最近の事例とその対処方法についても具体的に解説されました。最後に、競合他社間での情報交換に関する独禁法上の留意点も紹介され、改めて慎重な対応の必要性を認識する有意義な研修となりました。



AOSD役員会が開催されました (2025年4月ムンバイにて)



2025年4月21日、AOSD（アジア・オセアニア銅製ドラム製造業者協会）の役員会がインド・ムンバイにて開催されました。日本からは近松理事長、松田企画・統計委員長、江原技術委員長および事務局長が出席し、各国の代表とともに、業界の最新動向や今後の課題について活発な意見交換が行われました。

会議ではまず、昨年12月に日本で開催されたICDM（国際銅製ドラム製造業者連合会）役員会の報告をもとに、AOSD各国の空ドラムの物流事情などが共有されました。続いて2024年の生産統計では、日本が前年並みであったのに対し、中国・インド・韓国はいずれも前年比で約5%の増加となったことが報告されました。あわせて、インドからは国内の規格認証制度や環境規制の厳格化に対応する取り組み、中国からは上位企業を中心とした業界再編の進展について報告がありました。

また、AOSD国際会議（第12回）が、2027年11月8日～10日に広島市にて開催されることが正式に決定されました。あわせて、AOSDの将来的な活動方針や会員制度の在り方についても意見交換が行われ、今後の役員会で引き続き協議される予定です。なお、次回の年次役員会はタイでの開催が予定されています。

会議後の夕食会では、インドドラム缶工業会の役員数名も合流し、スパイスの効いた本場のインド料理を囲みながら、各国の関係者との国際的な交流を深めました。さらに翌日には、インド最大手のドラム缶メーカーであるBalmer Lawrie社の工場を訪問し、日本と比べて簡素化された製造体制が印象に残ったとの声が聞かれました。



夕食会後の集合写真

第12回 AOSD国際会議を2027年11月 広島で開催します

AOSD（アジア・オセアニア銅製ドラム製造業者協会）では、原則3年に一度、役員国が持ち回りでホストを務め、技術発表を中心とした国際会議を開催しています。前回の第11回会議は、2024年4月に韓国・仁川にて開催されました。

次回となる第12回AOSD国際会議については、既に日本での開催が決定していましたが、このたび、下記の通り具体的な日程および会場が正式に決定いたしました。

開催概要

- ・日程：2027年11月8日（月）～10日（水）
- ・会場：グランドプリンスホテル広島（広島県広島市）

会場のグランドプリンスホテル広島は、瀬戸内海を望む景観豊かなリゾートホテルでありながら、広島駅から車で約20分とアクセスにも優れています。

また、2023年にはG7広島サミットが開催されたこともあり、国際会議場としての信頼性と実績を兼ね備えた施設です。

今回の会議においても、国内外より多くの皆様にご参加いただき、活発な技術トピックスの発表や情報共有・意見交換の場となることが期待されています。

ぜひご参加をご予定くださいますようお願い申し上げます。

会議のテーマや会議専用ホームページの準備が整いましたら、工業会のホームページ等で随時お知らせいたします。

ご不明な点がございましたら、ドラム缶工業会事務局までお問い合わせください。

ドラム缶工業会事務局 Tel：03-3669-5141
E-mail：info@jsda.gr.jp



会場のグランドプリンスホテル広島



原爆ドーム

写真提供：一般社団法人広島県観光連盟



厳島神社

写真提供：広島県

ペール委員会 異業種工場見学会レポート

大塚製薬(株) 袋井工場・ハウス食品(株) 静岡工場(静岡県)

日 時: 2025年5月15日(木)

見学場所: 大塚製薬(株) 袋井工場／ハウス食品(株) 静岡工場

見学参加者: ペール委員会各社より 計10名

ペール委員会では、異業種の先進的な製造管理や自動化技術、安全・衛生・環境対応への取り組みを学び、自社業務の改善に資することを目的として、定期的に工場見学会を実施しています。本年は静岡県内に所在する大塚製薬袋井工場およびハウス食品静岡工場の2カ所を訪問し、食品業界における現場管理の実態を体感しました。

【大塚製薬(株) 袋井工場】

飲料の「ポカリスエット」製造ラインを中心に見学しました。見学ルートは説明会場と直結しており、毎分1,200本を製造する清潔かつ自動化されたラインの一連の工程(PET容器成形～充填～包装～パレタイズ)を、2階の窓越しに観察しました。従業員は全体で101名体制とのことでしたが、見学中に確認できた社員はわずか数名であり、製造工程における徹底した自動化が印象に残りました。

環境対応にも積極的で、ペットボトルの軽量化(27g→18g)による年間2,700トンの樹脂削減をはじめ、ラベルレス化、再生PETの導入、袋井市および豊田通商(株)との資源循環協定(2025年2月締結)など、サステナビリティを重視した取り組みが展開されていました。また、製品の味をチェックする官能検査においては、地域ごとの水の味の違いを判別できる社員がいるとのことで、品質管理に対する高い専門性と姿勢が感じられました。



大塚製薬袋井工場での集合写真



【ハウス食品(株) 静岡工場】

主にレトルトカレーの製造工程を見学しました。見学の冒頭では、金属探知機による異物検知のデモンストレーションが行われ、小さな金属片を混入させた製品が探知機にかけられ、即座に異常を検知しアラームが作動する様子を確認しました。システムの精度はもとより、デモ中においても社員が機械運転前に周囲へ声出しを行うなど、安全の基本動作が日常的に実践されている点に感銘を受けました。

工場の入口では静脈認証による入退場管理が導入されており、異物混入防止の観点から見学者と社員の動線が明確に分離されていました。また、虫を寄せ付けないための黒色フィルムが設置されているほか、作業者が使用する絆創膏は、青色の特別仕様のものが義務付けられており、番号によるトレーサビリティも確保されていました。さらに、ゴミ袋には視認性を高める赤色が採用されており、衛生・安全管理の徹底ぶりが随所に表れていました。

製造設備では、具材の自動計量機や充填機、最大8,000食を一度に加熱調理できる大型加熱炉などが導入されており、大規模かつ効率的な生産体制に驚かされました。品質検査では、AIによる画像認識と人の目による最終確認が組み合わされており、確実な品質保証体制が構築されていました。

また、自動化の面では、構内の資材運搬に電気自走車が導入されており、歩行者の安全にも配慮した設計となっていました。今回は見学できませんでしたが、積み込み作業の自動化も進められているとのことです。さらに、夜間の電気自走車運行時にはライトを消灯することで虫の寄り付きを抑えるなど、細部にわたる異物混入防止対策が徹底されていました。



ハウス食品静岡工場での集合写真

総 括

今回の見学では、食品業界における高度な安全・衛生・環境対応や最新の自動化技術に触れることができ、大いに刺激を受けました。一方で、整理整頓や「見える化」、従業員の安全規律の遵守といった製造現場の基本がいかに重要かを改めて認識する良い機会にもなりました。両工場においては、訪問者へのもてなしや丁寧に計画された見学対応も印象的であり、今後の職場改善や工場運営のヒントとして活かしていきたいと考えております。

ドラム缶の鐘

— 西法寺で受け継がれる祈りと記憶

2006年のひびき47号でもご紹介した「西法寺のドラム缶の鐘」について、このたび改めて取り上げ皆様にお伝えいたします。

兵庫県芦屋市にある浄土真宗本願寺派・西法寺では、1995年の阪神・淡路大震災の教訓を次世代に伝えるため、ドラム缶を素材とした鐘「追悼之鐘」が屋上に設置されています。この鐘は、震災当時に避難所となった同寺でドラム缶が炊き出しや風呂の湯沸かしなどに活用され、人々の命と生活を支えた経験から生まれたもので、毎年1月17日の追悼行事で鳴らされ、震災の記憶と復興の歩みを伝え続けています。

2025年には震災から30年の節目を迎え、老朽化した初代の鐘に代わり、二代目となる新たなドラム缶の鐘が設置されました。

本年2月には、当会の企画・統計委員会メンバーが現地を訪問し、西法寺代表の上原照子様より当時のお話や鐘設置の経緯について伺いました。鐘を実際に撞かせていただき、改めてドラム缶が災害時に果たした役割とその象徴的な意味を実感いたしました。また、この訪問の際には、「ドラム缶の鐘」が海外でも注目を集めており、外国からの見学者も多く訪れていることも伺いました。

ドラム缶は産業用途だけでなく、非常時においても生活を支える「器」として、社会に貢献する存在です。この鐘は、その象徴であり、震災の風化を防ぎ、次世代への教訓を語り継ぐ貴重な取り組みです。

今後もドラム缶工業会では、ドラム缶の社会的価値と可能性について広く発信してまいります。



震災直後の、地域住民向け「西法寺だより」から。ドラム缶で沸かしたお湯を使ったお風呂を被災者へ開放し、多くの方々が利用された。



ドラム缶の鐘と上原代表(中央)

ひびき47号の記事は
こちらの
二次元コードから



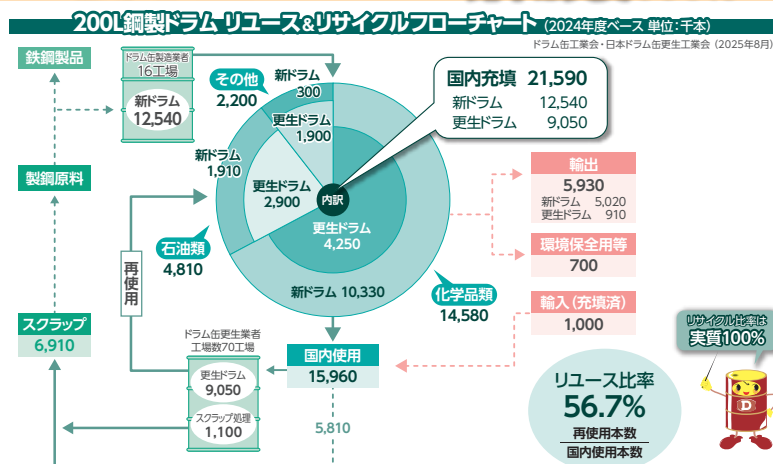
西法寺

兵庫県芦屋市茶屋之町10-8
Tel : 0797-34-1588

鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”です

資源としてのリサイクル
比率は実質100%

鋼製ドラムは使用後、一部は更生缶メーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース(再使用)およびリサイクル(再利用)のシステムが確立しており、循環型リサイクルの優等生といえます。右の図は2024年度版200L鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は56.7%になりますが、環境保全用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。



		当初(1997年)	2019年度ベース	2020年度ベース	2021年度ベース	2022年度ベース	2023年度ベース	2024年度ベース
工場数	新ドラム	18工場	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	17工場 (+1)	17工場 (変わらず)	16工場 (-1)
製造 本数	新ドラム	12,000千本	13,560千本 (▲3.1%)	12,820千本 (▲5.5%)	14,260千本 (+11.2%)	12,820千本 (▲10.1%)	12,340千本 (▲3.7%)	12,540千本 (+1.6%)
	更生ドラム	16,000千本	10,720千本 (▲4.6%)	10,090千本 (▲5.9%)	10,480千本 (+3.9%)	9,840千本 (▲6.1%)	9,190千本 (▲6.7%)	9,050千本 (▲1.5%)
国内充填		28,000千本	24,280千本 (▲3.8%)	22,910千本 (▲5.6%)	24,740千本 (+8.0%)	22,660千本 (▲8.4%)	21,530千本 (▲5.0%)	21,590千本 (+0.3%)
国内使用		26,000千本	18,080千本 (▲3.9%)	17,070千本 (▲5.6%)	18,290千本 (+7.1%)	16,850千本 (▲7.9%)	15,970千本 (▲5.2%)	15,960千本 (▲0.1%)
リユース比率		61.5%	59.3% (▲0.4%)	59.1% (▲0.2%)	57.3% (▲1.8%)	58.4% (+1.1%)	57.5% (▲0.9%)	56.7% (▲0.8%)

ドラム缶・ペール缶の2024年度出荷実績

2024年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ1.6%増、198千本増の12,535千本となりました。

用途別では、前年度に比べ化学向け(1%増、95千本増)、石油向け(5.2%増、94千本増)、塗料向け(6.6%増、39千本増)が増加し、食料品向け(9.2%減、17千本減)、その他向け(9.7%減、14千本減)が減少しました。

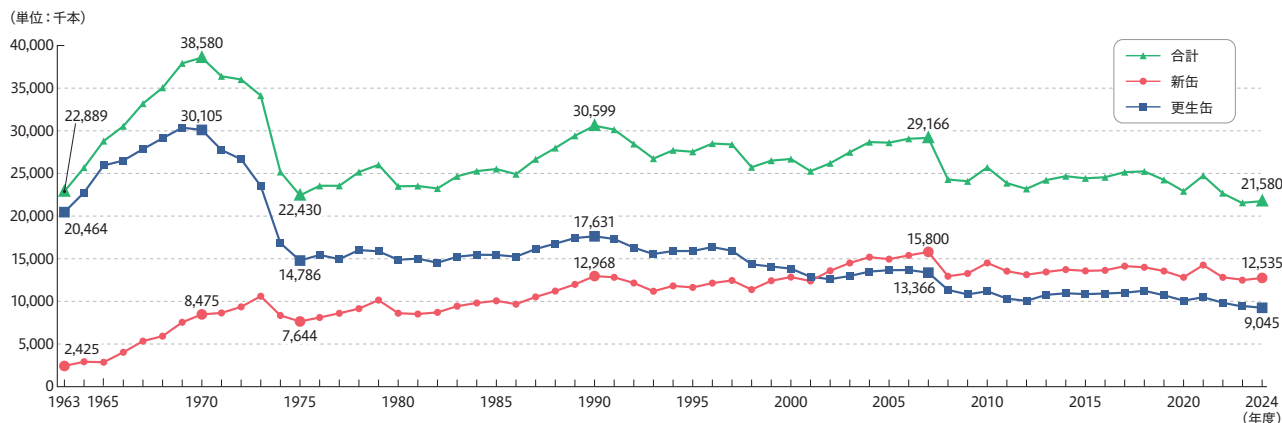
ペール缶は前年度比2.4%減の16,464千本、中小型缶は同5.5%減の366千本となりました。

2024年度缶種別・用途別出荷実績

缶 種	2024年度実績						
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別〔(本数) (千本)〕				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,535	101.6	1,905 (105.2)	9,699 (101.0)	636 (106.6)	165 (90.8)	130 (90.3)
ペール缶	16,464	97.6	8,602 (93.4)	6,821 (102.0)	475 (98.6)	0	565 (116.2)
中小型缶	366	94.5	0	352	0	0	14
亜鉛鉄板缶	273	84.8	0	264	2	4	3
ステンレス缶	31	101.4	0	29	1	0	1
合計	29,669	—	10,508	17,165	1,114	170	713
前年度比 (%)	—	—	102.2	100.6	105.7	91.7	97.0
構成比 (%)	—	—	18.2	74.2	4.9	1.3	1.4

(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下端()は前年度比。
2. 前年度比ならびに、構成比は、トン数ベース。
3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。
4. 総本数は、29,668,754本。表上数値は四捨五入による差異がある。

200Lドラム缶市場動向推移 (1963年度～2024年度)



(注) 1. 千本以下四捨五入。 2. 1963年度の新缶生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンと1965年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

・・・事務局だより・・・

事務局でも熱中症対策として電解質飲料を備え、会議にお越しの方に必要に応じて提供できる態勢としました。また、4月より事務局職員が交代し、新たに高橋留美子が着任しました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



会員

《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製缶所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

《準会員》

- 森島金属工業(株)
- 《賛助会員》
- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141
FAX 03-3669-2969
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <https://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.91 (2025年9月4日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 事務局長 廣川 二郎

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。